氏　名（本籍）	**山　野　雅　之**　（東京都）
学位の種類	学　術　博　士
学位記番号	博美第８号
学位授与年月日	昭和63年３月25日
学位授与の要件	学位規則第５条第１項該当 美術研究科美術専攻　デザイン研究領域
学位論文等題目	（**作品**）　**日本の屋内空間における装飾表現の創作的研究** （**論文**）　**寝殿造りの屋内空間における装飾論** **（屏障具に見られる大和絵表現の現代への展開）**
論文等審査委員	（主　　査）　東京芸術大学 教　授（美術学部）　吉田左源二 （論文担当 第１副査）　〃　（　〃　）　稲次　敏郎 （作品担当 第１副査）　〃　（　〃　）　平山　郁夫 （副　　査）　〃　（　〃　）芸術学士　山川　　武 （　〃　）　〃　（　〃　）工学修士　前野　　嶌 （　〃　）　〃　助教授（　〃　）工学博士　本間　紀男

論文内容の要旨

本論文は、「日本の屋内空間における装飾表現の創作的研究」（作品）に対応する「日本の屋内空間における装飾表現の歴史的研究」（論文）として、寝殿造り屋内空間における屏障具の機能的効果、及びその装飾的効果・趣好性について、源氏物語及び源氏物語絵巻を中心に考察したものである。

「寝殿造りの屋内空間における装飾論 ― 屏障具に見られる大和絵表現の現代への展開」と題し、序及び本文３章から構成されている。

序では、創作研究（作品）にともなっての本研究の動機、及び源氏物語・源氏物語絵巻を本研究の基本資料とする理由と、研究方法について述べている。

第１章、「寝殿造りの屋内空間における屏障具の果たした仕切りとしての役割について（源氏物語及び源氏物語絵巻を中心としての考察）」では、寝殿造りにおける屏障具の種類・形状及び機能について、源氏物語に見られる文章表現と源氏物語絵巻に見られる絵画表現とを対応させながら抽出し、これら屏障具がどのように組合せられて寝殿造り一室空間が区切られ、目的に応じた空間設定がなされたかを例証し、そこでの生活における空間に対する意識について考察している。

ここでの考察では、屏障具が寝殿造りの屋内空間で、視覚的な仕切りに重点をおいた「隔て」の道具として用いられ、単独または複数の使用、数種類の屏障具の組合せなどにより、一室空間における公・私の異質領域の分割、同質領域での御簾越しの対面や、対面における間を保つ儀礼的な隔てとしての使用、異質領域を同質領域につなげる連続性の機能を果たしていたことと、その各々の領域における屏障具素材の質的効果、及び光線の透過度と配置の相関関係を明らかにしている。

第２章、「寝殿造りの屋内空間における屏障具の果たした装飾的効果、及び装飾の趣好性について、（源氏物語及び源氏物語絵巻を中心としての考察）」では、源氏物語の文章表現、及び源氏物語絵巻に見られる屏障具にもとづいて、種類別にその装飾モチーフや装飾表現形式を例証し、屏障具の装飾が屋内空間でどのような視覚的効果を果たしていたかを考察すると共に、寝殿造りの屋内空間での装飾に対する意識、及び趣好性について考察している。

ここでの考察は、御簾の透過性による装飾効果、壁代の幾何学的文様と絵画的装飾の組合せによる装飾効果、軟障・几帳の絵画的装飾効果、几帳の組合せによる連続効果、他の屏障具との組合せによる連続する装飾効果、及び不透過素材である障子・屏風の透過素材との装飾性のつながり、屏風の連続配置による装飾効果等、各屏障具の装飾効果・趣好性について述べている。そして寝殿造り庭園景観と屏障具に描かれた装飾に対する趣好性との共通性、及び装飾表現に見られる主題の共通性について、これを当時の美意識との関連性において考察し、第１章で考察した場の設定に由来する異質屏障具の組合せ配置は、題材の共通性とその水平的連続性により、空間の統一感は屋内外を通して成立したことを明らかにしている。

第３章、「日本の屋内空間における装飾表現の創作的研究」では、はじめに近代建築の屋内空間における開放性について、ル・コルビュジエ、ミース・ファン・デル・ローエの思想及び作例を引用し、これと寝殿造り屋内空間の開放的性格との共通点を取り上げ、それを間仕切る屏障具の、現代的展開への可能性を提唱している。次に屏障具に描かれた大和絵の装飾的特性について、第１章・第２章をもとに、現代空間への展開の可能性について考察を行ない、1984年から1987

年にかけて、屋内空間における装飾表現の研究として、作者の制作した作品の内から大和絵をテーマとした19点の図版、及び、屋内設置計画を掲載し、本論を基盤とした創作研究の過程を示すと共に、現代日本の屋内空間での大和絵をテーマとした表現様式・技法・素材などの面からの装飾表現の可能性について言及している。